

猥褻刊行物ノ流布及取引ノ禁止ノ爲ノ國際條約御批准ノ件審査委員會

昭和十年十月三十一日(木曜日)本院事務所ニ於テ開會

出席者

一木 議長

平沼 副議長

審査委員長

荒井 顧問官

審査委員

河合顧問官

石井顧問官

原顧問官

窪田顧問官

林顧問官

闕席者

元田顧問官

國務大臣

廣田外務大臣

小原司法大臣

兒玉拓務大臣

説明員

金森法制局長官

森山法制局參事官

山越對滿事務局事務官

栗山外務省條約局長

小林外務書記官

坂本外務書記官

抽 密 院

安東外務事務官

赤木内務次官

唐澤内務省警保局長

内藤内務書記官

小林内務事務官

岩村司法省刑事局長

下村司法書記官

萩原拓務省管理局長

赤木拓務書記官

村上書記官長

堀江書記官

武藤書記官

(午後一時三十分開會)

荒井委員長開會ヲ宣ス

外務大臣ヨリ本條約ノ成立ノ經過及内容ノ大綱ニ  
付説明アリ次デ司法大臣ヨリ國內法殊ニ刑法規定  
トノ關係ニ付又拓務大臣ヨリ我國ノ之ニ對スル留  
保宣言ニ付補足的説明アリ更ニ條約局長ヨリ本協

定ノ内容及新宣言ニ付詳細ナル説明アリ

右終テ河合顧問官ヨリ千九百十年ノ協定成立ト  
帝國トノ關係、同協定存續ノ要否、本條約御批准  
奏請遲延ノ事由、代表者ニ依ル留保宣言ノ手續  
等ニ付質問アリ條約局長及司法大臣ヨリ答辯  
アリ

石井顧問官ヨリ留保ノ撤廢ニ關スル數次ノ質問  
アリ司法大臣及條約局長ヨリ夫々答辯アリ  
原顧問官ヨリ本御諮詢ノ容体、本條約ノ要求ス  
ル處罰規定ノ範圍、本條約ト支那ニ於ケル治外

法權トノ關係及御批准奏請遲延ノ理由等ニ關  
シ逐次質問アリ司法大臣、刑事局長、法制局  
長官及條約局長ヨリ夫々答辯アリ

窪田顧問官ヨリ本條約ニ基キ外國ト交渉ヲ為  
スベキ官廳、委託ノ手数料ニ付次テ第一條ノ犯  
行ノ總テニ對スル罰則及外國ニ於ケル犯罪ニ對  
スル處罰規定ノ要否ニ付質問アリ更ニ刑法ノ改  
正ヲ俟タズ之ガ為特別法ヲ制定スルノ考ナキ  
ヤヲ問ヒ司法大臣、條約局長及内務次官ノ答辯  
アリ

荒井委員長ハ第四條ノ法意ニ付質問ニ法制局長官ノ答辯アリ

次デ原石井兩顧問官ヨリモ夫々質問アリ條約局長及刑事局長ヨリ答辯アリ

荒井委員長ハ右ヲ以テ質問終了ト認メ國務大臣及説明員ノ退席ヲ求ム

(國務大臣及説明員退席)

其ヨリ委員間ノ協議ニ入り意見交換ノ結果本案ハ可決セラレ可然旨全會一致ヲ以テ議決セラル次デ原顧問官ヨリ本案條約ノ御批准案文中

ニ「大日本帝國皇帝」ノ語アルガ至尊ノ御稱呼ハ已ニ我憲法ノ條章ニ依リ「天皇」ト定マレル今日「皇帝」ナル語ヲ使用スルハ妥當ナラズト信ズルニ由リ此ノ機會ニ於テ之ヲ改正セシメテハ如何我國ノ國號ニ付テハ政府當局ニ於テ已ニ本院ノ希望ニ基キ從來慣用シタル「日本國」ヲ改メテ「大日本帝國」ト爲セル旨ヲ述ブ之ニ對シ各員ヨリ所見ノ陳述アリ異議ナキニ由リ之ニ對スル政府ノ所見ヲ質スコトニ決定ス

仍テ荒井委員長閉會ヲ宣ス

(午後五時三十分閉會)

柳 密 院

災害善後ニ關スル經費支辨ノ為公債發行ニ關  
スル件審査委員會

昭和十一年二月五日(水曜日)本院事務所  
於テ開會

出席者

一 木 議 長

審査委員長

荒井顧問官

審査委員